

インターバンクの声（2018年1月5日）

昨日、東京市場の午前中に112円78銭のドル高値を付けて以降は、ドルの買い控えが続いていたドル円だったが、ニューヨーク市場の朝方に発表された12月のADP雇用統計が市場予想を大きく上回ったため112円80銭台までドル買いが進んだ。金曜日の米労働省の雇用統計発表を見極めたいところだったが、ADPの非農業部門就業者数が予想された19万人増を大幅に上回る25万人増となって、市場も思わずドル買いに走ってしまったようだ。米雇用環境の堅調さは持続的との見方が大勢ではあるが、時折強いADPの数字が出た後の雇用統計が弱い結果になることがあるのが悩ましいところだ。そうした記憶のあるディーラー・投資家も多いのだろうか、ニューヨーク市場の終盤ではドルの上値が重くなり始めている。それでも雇用統計結果が強ければドル買いに向かいそうだが、週末の北朝鮮のICBM発射実施が気になる人も少なくないはずで、買われても113円台中盤に届くかどうかのレベルまでのような気がする。

※「インターバンクの声」は2018/1/5(金)をもって廃刊となります。

長らくのご愛読ありがとうございました。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。